

「志木のまち案内人の会」とは

会員 一ノ倉 達也 (志木市)

「志木のまち案内人の会」は、埼玉県志木市で平成16～20年度に開校された「志木いろは市民大学」の講座の中の一つ「ふるさと・まちづくりコース」の講座として、平成20年度に開校された「志木のまちボランティア案内人養成講座(歴史・自然部門)」「あなたも、志木の魅力を再発見し伝えるボランティア案内人になりませんか?」を修了して、「志木のまちボランティア案内人」として認証された受講者とその運営委員の有志が、その主旨に沿った活動をボランティアで発展的に継続していこうと、平成21年4月の設立会合をもって総勢18名で発足したものです。

私達は、志木の歴史や自然、文化や産業などを学び、志木の素晴らしさを知識として深め、志木の魅力を再発見して、興味と関心のある方々と若い世代の人々に語り伝えることを目的として、活動しています。具体的には、市内の2～3時間の名所・史跡めぐりコースの案内や講演会の開催、市内の歴史的な景観や遺物・文化財などのお宝発見講座を開いたりしています。

ご承知の通り、県南部にある志木のまちは、柳瀬川と新河岸川で台地と低地に分けられます。西南部の台地は武蔵野台地に繋がり、東部の低地は東を荒川の流れて囲まれ、水と緑の中、人と自然が古来より共生してきた歴史豊かなまちです。

台地には新河岸川を横断している掛樋の「いろは樋」にもつながる野火止用水(伊豆殿堀)跡があり、低地には総延長8.6kmの6つの堤防からなる総囲堤、樋門、水塚が宗



「江戸名所図会」に描かれたいろは樋と引又河岸

岡地区の洪水・水害の歴史を物語っています。新河岸川の舟運で江戸と直結した商業都市として発展してきたこのまちは、台地にも低地にも、縄文時代の遺跡から平安時代の伝説、鎌倉時代から江戸時代を経て明治・大正・昭和期にかけての歴史的な文化遺産や民俗資料、民話がたくさん残る素晴らしいところです。

江戸時代後半から大正期にかけて、志木は商業のまちとして今日では想像も出来ない程に繁栄を極めていたと云われます。その最大の要因は、江戸と川越との物資交流に使われた運河として整備された新河岸川沿いに河岸場(引又河岸)を有し、今の所沢・立川・八王子・青梅から甲府方面までの新河岸川以西を主な商圈とする物流の大動脈としての新河岸川舟運による物資や人の流れを通じて、文化や情報面で江戸と直接交流し、江戸の影響を強く受けていたからです。更に、甲州街道・日野宿と日光御成道・岩槻宿を結ぶバイパスとしての奥州街道に沿った宿場(引又宿)でもあり、そして、又、そこに六斎市としての市場(引又市)があったからです。志木の歴史を語る時、新河岸川の舟運に触れない訳にはいかないのです。(志木のまち案内人の会会長)

今後のイベントスケジュール

*申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-----------|--------------------------|---------|
| ○2月19日(月) | お祭り研究クラブ(上岡観音(馬頭観音)の絵馬市) | <前号で紹介> |
| ○2月24日(土) | 古道探索倶楽部(赤山街道 千住道その1) | <今号で紹介> |
| ○3月11日(日) | 講演会「保科正之と母(志津)の安産祈願文」 | <今号で紹介> |
| ○3月14日(水) | プレミアム講座「埋蔵文化財の保護について」 | <今号で紹介> |

歴史見学会 『武蔵国分僧寺・尼寺跡、横浜市歴史博物館、大塚・歳勝土遺跡』

2017/12/15 に 38 名が参加

今回の見学会は、11月の『武蔵国分寺の造営と北武蔵』講演会とリンクした武蔵国分僧寺・尼寺跡の見学会です。交通渋滞等で到着が遅れましたが、国分寺市ふるさと文化財課を初め市民解説ボランティアの方々がガイド内容の調整をいただき予定どおり次へ出発することができました。感謝申し上げます。

武蔵国分僧寺では、講堂跡の基壇はすでに復元されており、瓦積の基壇の一部はオリジナルのものを見ることができました。金堂跡では保存整備工事が着々と進められていて、見学当日は、掘り起こしたオリジナルの礎石が整然と並んでいるのを見学することができ感動を覚えました。

昼食は府中駅近くのホテル内のレストランでゆったりと過ごすことができました。

午後は横浜市歴史博物館(都筑区)に移動し、博物館ガイドボランティアの案内で、隣接する『大塚・歳勝土遺跡公園』を見学しました。『大塚遺跡』は、わが国で初めて完全な形で発掘された約2000年前の弥生中期の環濠集落跡で、小高い丘の上に環濠と呼ばれる深い溝と土塁で外敵を防護した大規模集落です。掘立柱建物である高床倉庫の前では、木の階段を上がった先には出入口がなく、壊して入るとの説明に一同驚きました。『歳勝土遺跡』は、環濠の外にある集落の共同墓地で、方形周溝墓が復元されています。その後、横浜市歴史博物館の円形展示室を自由に見学しました。特別展『群集する古墳～かながわの古墳時代終末期を考える』を開催中で、古墳好きな皆さんは午後4時の出発時間ぎりぎりまで見学されていました。(山本洋正・山口清光 記)



クラブ活動 今後の予定(参加者募集)

◆第22回鎌倉街道を訪ねて 赤山街道 千住道1(延期)◆

2018(平成30)年2月24日(土) 「古道探索倶楽部」(内容は前号紹介と同じです)

《日時》2018年(平成30年)2月24日(土) 9時30分～15時30分(予定)

《集合》埼玉高速鉄道 新井宿駅改札口周辺

《コース》新井宿駅⇒赤山日枝神社⇒金剛寺⇒慈林寺⇒赤井氷川神社⇒傑伝寺⇒普門寺⇒昌福寺⇒見沼代親水公園駅 《参加費》*資料代等300円

《その他》少雨決行(悪天候時には、連絡します)。歩行距離は約9kmで、史跡巡りをいれると11km少々

《問合せ先》前日まで犬走(いぬばしり) 048-756-5634 当日 小俣(おまた) 090-3436-9017

《参加申込み》2月21日(水)までに、普通ハガキに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて。

◆浦和地区の“謎の地名”を探索する春の散歩◆

2018(平成30)年3月23日 「まち歩き研究会」(参加自由です)

《期日》2018年(平成30年)3月23日(金) 10時00分～14時00分:今回は雨天中止です

《集合》JR埼京線・武蔵野線の「武蔵浦和駅」改札出口10時(友の会の旗が目印)

《費用》交通費各自 参加費用・保険代他300円 《持物等》歩行中心の服装。飲物・お弁当など持参。

《行程》謎の地名「鹿手袋」の由来からこの地の成り立ちと文化の関係を考え、春の遊歩道と公園を歩きます。コースは、武蔵浦和駅⇒田島通⇒睦神社⇒医王寺⇒白幡沼⇒3つの線路橋⇒田島排水路遊歩道⇒沼影観音堂⇒花と緑の散歩道(別所排水路)⇒別所沼公園(昼食場所予定)⇒明神社古墳⇒玉蔵院⇒浦和駅(解散)

《申込・問合せ》①FAX: 048-470-2758 ②Eメール(筑井): pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームで。

[友の会からのお知らせ] 新年度の会員(会費)継続の手続がお済みでない方に「振替払込用紙」を同封しました。ゆうちょ銀行にて年会費2000円をお振り込みください。会員証は次回会報に同封いたします。

埋蔵文化財の保護について

～ 発掘調査はなぜ行われるのか？ ～

建物や道路などの工事予定地でなぜ発掘調査をやるのか？そこに遺跡があるのはどうして分かるのか？調査費用は誰が出しているのか？出土品は誰のものになるのか？ 学芸員人生の大半を文化財保護行政に携わってこられた講師が、一般には意外と知られていない埋蔵文化財の保護について、様々なエピソードも交えて判り易く語ります。

講師の書上さんは、日本考古学(弥生時代)がご専門。東日本の弥生土器や墓制の研究実績を重ねられるとともに、埋蔵文化財の保護行政に指導的役割を担ってこられました。幾多のご経験を生かし、学芸員との協力で、明日の博物館像を描く努力をされています。

講師 書上 元博 氏 当館館長

とき 3月 14日(水) 午後1時半～2時半

ところ 当館講堂

ご参加無料

申込方法: 他のイベントとの混乱が生じやすいため、下記の点にご注意ください。

通常ハガキ(62円に料金改定済)に、開催日、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記。

締切:3月7日までに、下記の宛先へ必着でお願いします。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。

保科正之と

特別展示

母(志津)の安産祈願文

(大宮氷川神社元神主岩井家文書)

戦国の世を終え、武断政治から文治政治へと舵を取り、徳川 270 年の礎を築いた將軍輔弼役・保科正之。しかしその出生は決して恵まれたものではなく、秀忠「妾腹」の子であるがゆえに嫉妬深い正室お江の方から身を隠して幼少期を送るといった数奇な運命をたどりました。

今回はお江の方から隠れて秀忠の子を無事産もうとする母お志津の方の祈願文(大宮氷川神社元神主岩井家文書)を展示し、直木賞作家・中村彰彦先生より保科正之のお話しをお聴きします。

講師

中村彰彦先生 直木賞作家

第 111 回直木賞『二つの山河』・『保科正之』・『名君の碑』

日時
場所

3 月 11 日 (日) 午後 1 時半～3 時

当館講堂

東武アーバンパークライン (東武野田線)
大宮公園駅下車徒歩 5 分

参加費

500 円

当日は返信はがきをお持ち下さい。

※釣り銭のないようにお願いいたします。

申込み

往復はがきに 講演会名・住所・氏名・電話番号・会員の方は会員番号 を明記し、返信面にも住所・氏名を記入の上、下記宛先まで。

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

締切

2 月 28 日 (日)

定員 150 名 (定員を超えた場合はお断りすることもあります)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会